

## 愛知県経済の現状と見通し < 2017年12月 >

### 1. 景気判断 一覧表

部門	個別項目	基調判断(方向等)	基調判断の 前月との 比較(注1)	水準評価 (注2)
		詳細		
総括判断	景気の現状	一部に弱さがみられるが、景気は持ち直し 消費は力強さを欠くものの、輸出や生産活動が上向くなど、県内景気は持ち直している	→	
	当面の見通し	一部に弱さが残るが、回復していく見通し 海外情勢の不透明感や為替動向がリスクとして残るものの、所得環境の改善や生産活動の持ち直しに伴い、総じて回復していく見通し	→	
家計部門	個人消費	足踏みの状況 百貨店販売額は2か月ぶりの前年比減少	→	
	雇用	高水準 有効求人倍率は2か月連続の前月比上昇	→	
	住宅投資	減速感がみられる 住宅着工戸数は2か月ぶりの前年比減少	→	
企業部門	企業活動	増加基調 鉱工業生産指数は11か月連続の前年比上昇	→	
	企業倒産	一進一退 企業倒産件数は前年と変わらず	→	
海外部門	輸出	回復色が鮮明 名古屋港通関輸出金額は9か月連続の前年比増加	→	
公共部門	公共投資	底入れ 公共工事請負金額は2か月連続の前年比増加	→	

(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、↗：上方修正、⇔：据え置き、↘：下方修正を示す。

(例えば、「回復」「減速」となれば下方修正、「回復」「回復」なら据え置き、となる)したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、☀：晴、|：晴～曇、☁：曇、|：曇～雨、☔：雨、を示す。

(注3)個別項目の見通しは、特に表記がない場合には先行き半年間程度の見通しを示す。

お問い合わせ先	三重銀総研 調査部 伊藤
	電話：059-354-7102 Mail：mir@miebank.co.jp

2. 個別部門の動向: 家計部門

個人消費	足踏みの状況	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	

現状

個人消費は、足踏みの状況。

個人消費の動向を支出側からみると、10月の消費支出(勤労者世帯、名古屋市)は、前年比+6.0%と6か月ぶりの増加(図表1)。費目別にみると、教育(同 40.3%)は減少が続いたものの、交際費やこづかいなどのその他の消費支出(同+74.3%)が大きく増加したほか、交通・通信(同+25.0%)もプラスに作用。

個人消費の動向を販売側からみると、10月の県内百貨店販売額は、前年比 2.9%と2か月ぶりのマイナス。月後半の週末に台風が直撃したため、来店客数が減少し、衣料品などが伸び悩み。一方、スーパー販売額は同+0.8%と、百貨店同様客数が伸び悩んだものの、飲食料品が底堅く、2か月連続の増加(図表2)。

11月の新車乗用車販売台数(含む軽乗用車)は、前年比+3.3%と5か月ぶりに増加(図表3)。車種別にみると、小型車(同 3.1%)が減少したものの、普通車(同+10.3%)や軽乗用車(同+1.3%)はプラス。無資格検査問題で出荷を停止していた車種の販売が減少したものの、新型車やハイブリット車が伸び、全体では増加。

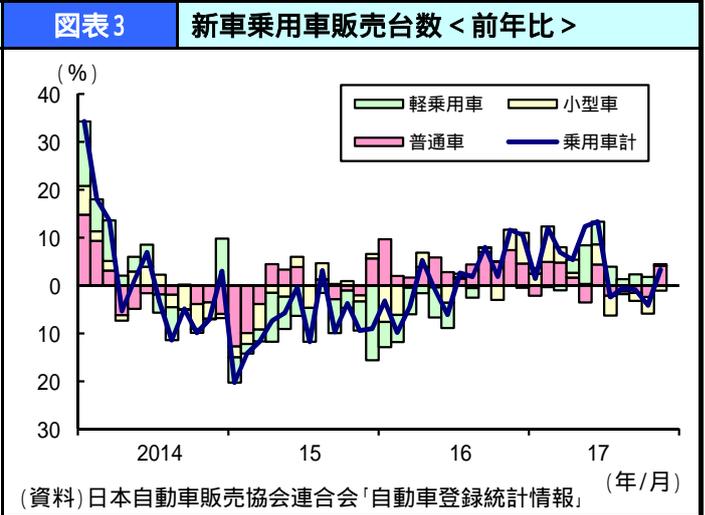
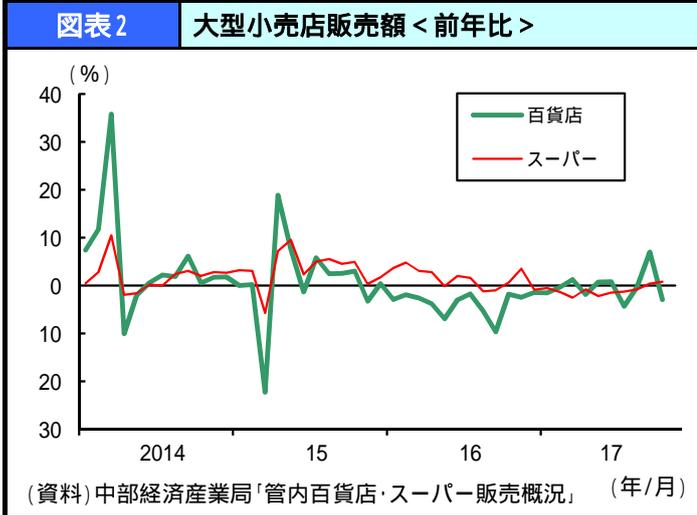
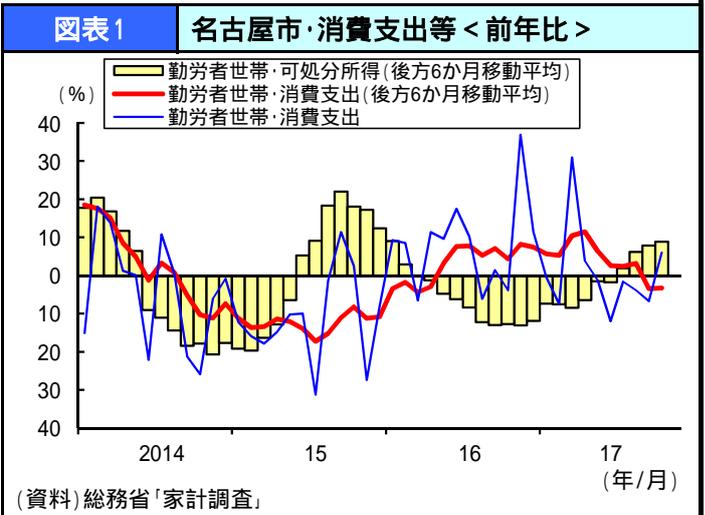
見通し

10月の勤労者世帯・可処分所得(後方6か月移動平均)は、4か月連続の前年比プラスとなるなど、所得環境の改善が緩やかに持続。加えて、株価の上昇や気温の低下などを受けて、コートなど高額商品の売上増加が期待できるほか、長久手市や日進市での商業施設の開業もプラスに働く見込み。もっとも、天候不順による野菜などの生鮮食品の高騰が消費意欲を下押しする可能性もあり、先行き、個人消費の持ち直しは緩やかにとどまる見通し。

**10月 勤労者世帯・消費支出(名古屋市)**  
 前年比 + 6.0% (6か月ぶりの増加)  
 ・交通・通信: 前年比 + 25.0% (2か月ぶりの増加)  
 ・その他: 前年比 + 74.3% (2か月連続の増加)

**10月 大型小売店販売額**  
 ・百貨店: 前年比 2.9% (2か月ぶりの減少)  
 ・スーパー: 前年比 + 0.8% (2か月連続の増加)

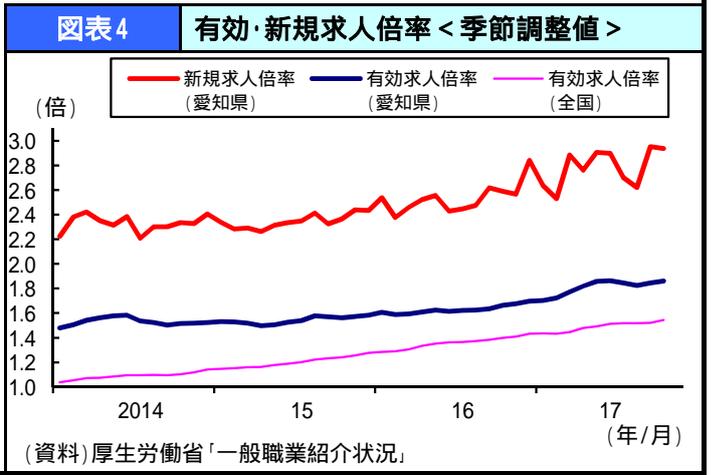
**11月 新車乗用車販売台数(含む軽乗用車)**  
 29,429台 前年比 + 3.3% (5か月ぶりの増加)  
 ・普通車 12,508台  
 前年比 + 10.3% (5か月ぶりの増加)



<b>雇用</b>	<b>高水準</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	
<p><b>現状</b> 雇用は、高水準。 10月の雇用環境をみると、新規求人倍率が2.94倍(前月比 0.01ポイント)と低下したものの、有効求人倍率は1.86倍(同+0.01ポイント)と2か月連続で上昇し、高水準が持続(図表4)。また、同月の新規求人数は前年比+4.2%と、12か月連続の増加。主要産業別にみると、製造業(同+9.8%)は輸送用機械器具などが増加したほか、非製造業では医療、福祉(同+7.7%)や運輸業、郵便業(同+14.4%)がプラス。</p> <p><b>見通し</b> 高齢化の進行、外国人観光客の増加に伴い、サービス業など幅広い業種で大幅な雇用の不足感が続く見込み。現状、2018年春入社の新卒採用も計画未達の企業が多く、求人をパートから正社員へ切り替えるなど待遇面の見直しで人手不足に対応しているため、さらに深刻化すれば企業活動の制約となる懸念も。</p>			

**10月 求人倍率(季節調整値)**

- ・有効求人倍率: 1.86倍  
前月比 + 0.01ポイント(2か月連続の上昇)
- ・新規求人倍率: 2.94倍  
前月比 0.01ポイント(2か月ぶりの低下)

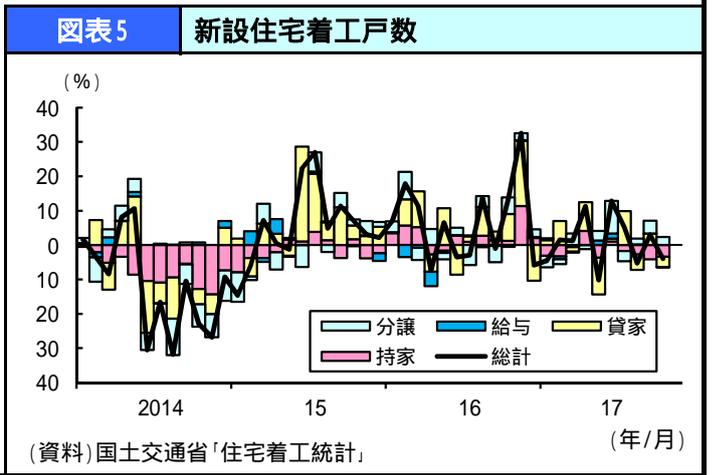


<b>住宅</b>	<b>減速感がみられる</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	
<p><b>現状</b> 住宅投資は、減速感がみられる。 10月の住宅着工戸数は前年比 4.0%と2か月ぶりの減少(図表5)。利用関係別にみると、分譲(同+9.8%)はマンション(同+28.6%)、一戸建(同+3.8%)とともに増加したものの、持家(同 10.5%)や貸家(同 6.9%)が減少し、全体ではマイナス。</p> <p><b>見通し</b> 住宅ローン金利が低水準で推移するなか、株価上昇などを受け高所得者のセカンドハウス需要の高まりや名古屋市中心部の再開発が着工戸数を下支えする見込み。一方、生産年齢人口の減少やマンションなど中古物件の売買やリフォーム市場の拡大による需要面からの下押し要因もあり、先行き、新規住宅着工は横ばい圏での推移となる見通し。</p>			

**10月 住宅着工戸数**

5,540戸 前年比 4.0%(2か月ぶりの減少)

- ・持家: 1,667戸  
前年比 10.5%(4か月連続の減少)
- ・貸家: 2,322戸  
前年比 6.9%(2か月ぶりの減少)
- ・分譲: 1,546戸  
前年比 +9.8%(3か月連続の増加)



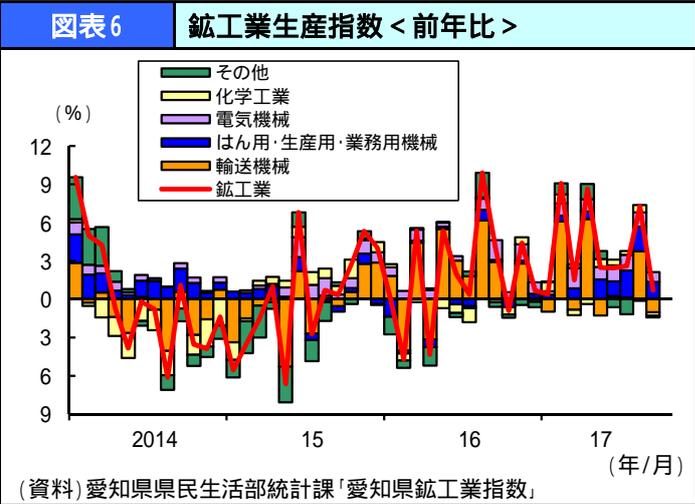
3. 個別部門の動向: 企業部門

企業活動	増加基調	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	

**現状**  
 企業の生産活動は、総じて増加基調。  
 9月の鉱工業生産指数は、前年比+0.7%と11か月連続で上昇(図表6)。業種別にみると、県内生産ウエートの約半分を占める輸送機械(同 -2.0%)は、4か月ぶりに低下したものの、はん用・生産用・業務用機械(同+12.2%)や電気機械(同+11.6%)がプラスに寄与。

**見通し**  
 人手不足に対応するための工作機械などの生産が底堅い推移が見込まれるほか、輸出増加が続く新型車や自動車部品をはじめとする輸送機械の増産が生産の押し上げにつながる見通し。そのようななか、米国では乗用車からピックアップトラックなどへ需要のシフトがみられるほか、大手企業の不正問題などが生産活動の重石となる可能性も。総じてみれば、緩やかな増加傾向が続く見込み。

**9月 鉱工業生産**  
 前年比+0.7%(11か月連続の上昇)  
 ・輸送機械:  
   前年比 -2.0%(4か月ぶりの低下)  
 ・はん用・生産用・業務用機械:  
   前年比+12.2%(11か月連続の上昇)  
 ・電気機械:  
   前年比+11.6%(14か月連続の上昇)  
 ・化学:  
   前年比 -7.6%(5か月ぶりの低下)

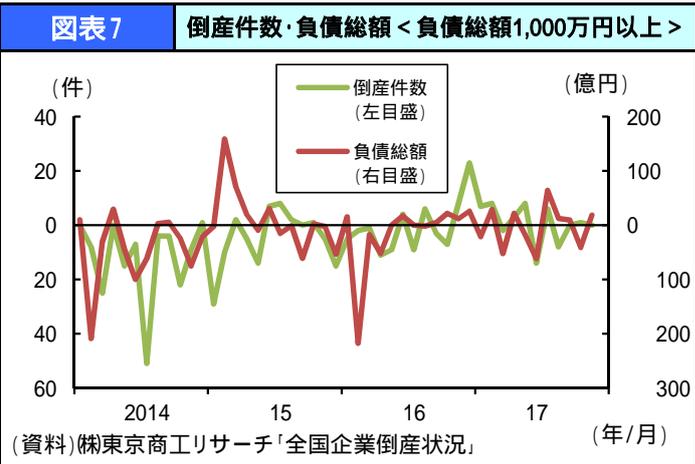


企業倒産	一進一退	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	

**現状**  
 企業倒産は、一進一退。  
 11月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、倒産件数は49件(前年比±0件)と、前年と変わらず(図表7)。また、負債総額は71億円(同+18億円)と2か月ぶりに増加。均してみると倒産件数、負債総額ともに横這い圏での推移。

**見通し**  
 製造業では、国内外需要の回復を背景に業況改善が期待される一方、非製造業では、飲食業や老人福祉・介護事業などの人手不足が深刻な業種で全国倒産件数が増加していることから、人手不足が人件費の増加を招き、収益を圧迫する懸念も。総じてみれば、当面一進一退の状況となる見通し。

**11月 企業倒産**  
 ・倒産件数: 49件  
   前年比±0件  
 ・負債総額: 71億円  
   前年比+18億円(2か月ぶりの増加)



4. 個別部門の動向：海外部門

<b>輸出</b>	<b>回復色が鮮明</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	
<p><b>現状</b>                  輸出は、回復色が鮮明。                  10月の名古屋港通関輸出額は、前年比 + 12.8%と、9か月連続で増加。(図表8)。仕向地別にみると、中国(同 + 15.3%)は増勢が鈍化したものの、米国(同 + 15.8%)や中国を除くアジア(同 + 14.7%)の伸びが拡大。品目別では、自動車(同 + 10.3%)や自動車の部分品(同 + 9.7%)が増加。</p> <p><b>見通し</b>                  10月の一般機械(中部5県主要メーカー)の海外受注高は前年比 + 50.9%と5か月連続の増加。地域別にみると、アジア(同 + 71.5%)、EU(同 + 52.8%)、北米(同 + 24.6%)など全ての地域でプラス。今後、海外情勢などに不透明感が残るものの、自動車関連製品需要が下支えし、増加基調が続く見通し。</p>			
<p><b>10月 名古屋港通関輸出額</b>                  10,208億円 前年比 + 12.8% (9か月連続の増加)                  ・米国: 前年比 + 15.8% (6か月連続の増加)                  ・アジア(中国を除く):                  前年比 + 14.7% (4か月連続の増加)</p> <p><b>10月 一般機械海外受注高</b>                  270億円 前年比 + 50.9% (5か月連続の増加)                  ・アジア: 前年比 + 71.5% (7か月連続の増加)                  ・EU: 前年比 + 52.8% (7か月連続の増加)</p>		<p><b>図表8 名古屋港通関輸出額 &lt; 前年比 &gt;</b></p> <p>(資料)名古屋税関「管内貿易概況」</p>	

5. 個別部門の動向：公共部門

<b>公共投資</b>	<b>底入れ</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	
<p><b>現状</b>                  公共投資は、底入れ。                  11月の公共工事請負状況をみると、請負件数は前年比 + 7.1%と2か月連続の増加。また、請負金額は同 + 29.6%と2か月連続の増加(図表9)。発注者別にみると、国(同 - 63.8%)などが減少したものの、愛知県(同 + 160.6%)では企業庁や建設部が大きく増加したほか、独立行政法人(同 + 108.5%)も全体を押し上げ。</p> <p><b>見通し</b>                  高速道路や橋梁の修繕などのインフラ事業は、老朽化に伴う維持・更新投資が底堅く推移する見込み。もっとも、愛知県や市町村では、厳しい財政状況のなか2018年度予算においても公共事業費の大幅な増加は見込み難く、先行きの公共投資は、緩やかな増加にとどまる見通し。</p>			
<p><b>11月 公共投資</b>                  ・公共工事請負件数: 888件                  前年比 + 7.1% (2か月連続の増加)                  ・公共工事請負金額: 305億円                  前年比 + 29.6% (2か月連続の増加)</p>		<p><b>図表9 公共工事請負金額 &lt; 前年比 &gt;</b></p> <p>(資料)東日本建設業保証㈱「愛知県内の前払金保証取扱高」(年/月)</p>	

## 県内経済トピックス (2017年11月)



### 1. 「第20回名古屋モーターショー」が開催

11月23～26日、名古屋市のポートメッセなごやで「第20回名古屋モーターショー」が開催。「名古屋モーターショー」は、中部地区最大の自動車イベントで、1979年に第1回目を開催して以降、2年に1度開催し、今回で20回目。20回を記念し、「スーパーカー同乗試乗会 & 体験会」や競技用マシンが特設コースを走行する「レーシングカーデモランド」が開催。

国内四輪9ブランドや輸入四輪27ブランドなど、国内モーターショー最多となる国内外二輪・四輪計42ブランドが出店したほか、各メーカーのサポカー・サポカーS(安全支援サポート車)の同乗体験試乗会などを実施。来場者は、4日間で205,900人と前回(203,500人)を上回った。

### 2. 豊田市駅前に再開発ビル「KITARA」が開業

11月25日、豊田市駅前に再開発ビル「KITARA」が開業。KITARAは、商業業務棟と高齢者施設棟(ともに地上8階・地下2階建て)、住宅棟(地上26階・地下2階建て)の3棟で構成する複合施設。豊田市内初となるシネマコンプレックスのほか、飲食店や銀行、薬局、高齢者施設(高齢者施設棟の1～8階)や約160戸の住宅施設がある。

「KITARA」の名称は、楽しいこと、わくわくすることを求めてここへ「来たら?」という意味と、再開発地区名称の「北」地区、ビルの所在地「喜多」町から命名。今後、東口まちなか広場の整備など、再開発を進め、都市のにぎわいを創出し、地域に愛される快適で新しいホームタウンストリートを目指す。

### 3. 「あいち航空ミュージアム」と「MRJミュージアム」が開館

11月30日、愛知県豊山町の県営名古屋空港内に「あいち航空ミュージアム」が開館。MRJの初飛行が成功した県営名古屋空港において、航空機をテーマとしたミュージアムを整備することで、航空機生産・整備の場、学校教育・社会教育といった人材育成の場、産業観光の場として地域の活性化を図る。「零戦」や戦後初の国産旅客機の実機「YS11」のほか、25分の1スケールの超精密模型「名機百選」を展示。

隣接地には、三菱重工業が開発している国産ジェット旅客機「MRJ」を紹介する「MRJミュージアム」も同日に開館。MRJの最終組立工場内にあり、工場上部の通路から実際の組立作業の見学も可能。見学には、インターネットから事前予約が必要。

# 景 気 指 標

三重銀総研  
2017/12/26

## < 愛知県 >

(注) ( )内は前年同期(月)比 < >内は季節調整済前期(月)比

	2015年	2016年	2016年				2017年				
			10~12	1~3	4~6	7~9	7月	8月	9月	10月	11月
大型小売店販売額(既存店)	( 0.4)	( 1.4)	( 1.1)	( 1.5)	( 1.1)	( 0.7)	( 2.6)	( 0.7)	( 1.3)	( 1.9)	
百貨店	( 0.0)	( 3.5)	( 1.9)	( 0.2)	( 0.1)	( 0.2)	( 4.3)	( 0.3)	( 7.0)	( 2.9)	
スーパー	( 0.6)	( 0.4)	( 0.7)	( 2.2)	( 1.5)	( 1.2)	( 1.6)	( 0.8)	( 1.3)	( 1.4)	
新車登録・販売台数(台)	244,528 ( 4.8)	256,872 ( 5.0)	63,692 ( 11.3)	78,225 ( 10.2)	60,440 ( 7.1)	62,467 ( 5.0)	19,922 ( 8.2)	17,496 ( 2.4)	25,049 ( 4.3)	17,317 ( 8.0)	22,355 ( 4.0)
有効求人倍率(季調済)	1.54	1.63	1.68	1.73	1.85	1.84	1.84	1.82	1.85	1.86	
新規求人倍率(季調済)	2.35	2.53	2.66	2.68	2.85	2.76	2.70	2.62	2.95	2.94	
名目賃金指数(調査産業計)	( 0.9)	( 1.7)	( 1.8)	( 0.1)	( 0.8)	( 0.4)	( 0.4)	( 1.3)	( 0.5)		
実質賃金指数(同)	( 0.2)	( 1.8)	( 1.7)	( 0.0)	( 0.6)	( 0.9)	( 0.8)	( 1.7)	( 0.2)		
所定外労働時間(同)	( 7.4)	( 2.9)	( 6.6)	( 0.1)	( 1.3)	( 2.7)	( 3.8)	( 3.3)	( 0.9)		
常用雇用指数(同)	( 0.7)	( 0.5)	( 0.8)	( 0.7)	( 0.9)	( 0.6)	( 0.8)	( 0.2)	( 0.8)		
新設住宅着工戸数(戸)	58,720 ( 5.1)	62,377 ( 6.2)	16,304 ( 12.8)	15,148 ( 0.4)	15,222 ( 4.4)	16,465 ( 1.1)	5,849 ( 5.1)	4,822 ( 5.3)	5,794 ( 3.0)	5,540 ( 4.0)	
鉱工業生産指数	( 0.1) -	( 1.7) -	( 1.4) < 0.6>	( 3.5) < 3.0>	( 4.4) < 4.8>	( 3.3) < 2.1>	( 2.6) < 0.1>	( 7.3) < 4.6>	( 0.7) < 3.4>		
企業倒産件数(件)	528	522	141	128	136	125	43	37	45	45	49
(前年同期(月)差)	( 58)	( 6)	( 24)	( 13)	( 3)	( 2)	( 6)	( 8)	( 0)	( 1)	( 0)
非居住用建築物着工床面積(千㎡)	3,601 ( 5.2)	3,450 ( 4.2)	898 ( 0.5)	694 ( 15.7)	884 ( 4.1)	853 ( 2.9)	308 ( 7.7)	195 ( 36.5)	351 ( 47.0)	295 ( 18.9)	
名古屋港 輸出(億円)	114,717 ( 0.9)	107,455 ( 6.3)	28,176 ( 7.1)	27,983 ( 6.3)	28,159 ( 6.5)	29,785 ( 12.3)	9,804 ( 10.7)	9,372 ( 14.6)	10,611 ( 11.7)	10,208 ( 12.8)	
公共工事請負金額(億円)	4,771 ( 3.4)	4,508 ( 5.5)	750 ( 12.5)	917 ( 23.9)	1,644 ( 2.4)	1,265 ( 10.4)	447 ( 6.6)	426 ( 11.8)	392 ( 23.0)	332 ( 11.7)	305 ( 29.6)
消費者物価指数・除く生鮮(名古屋市)	( 0.7)	( 0.5)	( 0.5)	( 0.1)	( 0.0)	( 0.5)	( 0.5)	( 0.4)	( 0.6)	( 0.7)	

## < 東海3県(愛知・三重・岐阜) >

	2015年	2016年	2016年				2017年				
			10~12	1~3	4~6	7~9	7月	8月	9月	10月	11月
大型小売店販売額(全店)	( 2.0)	( 0.0)	( 0.0)	( 1.2)	( 0.8)	( 0.4)	( 1.9)	( 0.6)	( 1.5)	( 1.0)	
同(既存店)	( 0.2)	( 1.2)	( 1.1)	( 2.0)	( 1.2)	( 1.0)	( 2.4)	( 0.9)	( 0.7)	( 2.2)	
有効求人倍率(季調済)	1.49	1.61	1.65	1.68	1.80	1.80	1.80	1.79	1.81	1.82	
新規求人倍率(季調済)	2.22	2.40	2.52	2.52	2.68	2.63	2.62	2.52	2.77	2.78	
新設住宅着工戸数(戸)	79,215 ( 4.2)	83,446 ( 5.3)	21,845 ( 7.7)	20,071 ( 1.0)	20,757 ( 3.0)	21,965 ( 1.8)	7,662 ( 5.4)	6,515 ( 6.7)	7,788 ( 6.2)	7,438 ( 3.3)	
鉱工業生産指数	( 0.5) -	( 0.4) -	( 0.2) < 0.9>	( 2.7) < 1.3>	( 5.5) < 4.0>	( 5.7) < 3.3>	( 5.6) < 4.2>	( 8.2) < 2.2>	( 3.6) < 1.3>	( 8.4) < 0.6>	
企業倒産件数(件)	737	736	195	173	200	182	59	58	65	64	74
(前年同期(月)差)	( 122)	( 1)	( 41)	( 0)	( 7)	( 7)	( 7)	( 8)	( 8)	( 3)	( 14)
域内外国貿易 純輸出(億円)	73,097	75,742	20,806	17,792	19,347	20,489	6,888	5,708	7,893	7,152	
輸出(億円)	163,679 ( 3.7)	149,433 ( 8.7)	39,417 ( 7.6)	38,516 ( 3.0)	38,728 ( 6.5)	40,642 ( 12.1)	13,437 ( 9.4)	12,686 ( 15.8)	14,519 ( 11.4)	13,892 ( 10.8)	
輸入(億円)	90,582 ( 8.6)	73,691 ( 18.6)	18,611 ( 13.2)	20,723 ( 6.5)	19,381 ( 8.9)	20,152 ( 13.0)	6,549 ( 12.0)	6,979 ( 15.2)	6,625 ( 11.6)	6,740 ( 14.0)	

：各指標における直近の数値